

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270200551		
法人名	株式会社 ユタカ		
事業所名	花梨の郷 (1階)		
所在地	千葉県千葉市花見川区千種町111-1		
自己評価作成日	平成22年1月30日	評価結果市町村受理日	平成22年6月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会
所在地	東京都港区台場1-5-6-1307
訪問調査日	平成22年3月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

* 自家菜園で入居者と一緒に行った旬の野菜を託児所の子供や入居者の家族と共に収穫したり、料理をして食べている。畑で採れたじゃが芋やさつまいろ・キウイを近隣の方や交流のあるグループホームに差し入れている。孤立しないように、他施設との交流や地域参加に力を入れている。本年度より、小学校との交流の機会も出来た。また、火曜サロンとして、ボランティアの方を講師として招き、1F・2F合同でパンフラー教室や折り紙教室が開催されるようになった。開催後のお茶会ではおしゃべりが弾み、賑やかなひと時となっている。今年6月より、会社の託児所が開設したおかげで、ちびっ子達とのふれあいの機会が多く持てる様になった。入居者が今まで関わってきた生活行事の取入れを企画を通して大事にしている。味噌作りや餅つきうどん作り等では昔からの経験・知恵をおおいに発揮して下さっている。パンorケーキ教室では入居者の家族や近隣住民もお誘いして好評である。入居者からの「ココに行ってみたい」「昔住んでいた場所に行ってみよう」等の希望を個別ケアとして実現している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 利用者一人ひとりの出来ることを把握し、その力を日常生活の中で最大限活かせるように配慮しながら、「その人らしく 家庭的で穏やかな日々 一人ひとりを大切に」の理念の実現に向けて介護に当たっています。その代表例としてこれまで培ってきた自家製味噌作りや、うどん打ちなど得意なことを披露する行事を定着化することにより、利用者に対しその達成感と、同時に伝統技を伝える喜びを与えています。
 2. 家庭菜園の苗植えから収穫、食を通して同一法人が運営する託児所の子どもや利用者家族とのふれあいを実現しているだけでなく、収穫物の一部を近所の人たちや、交流している他のグループホームにおすそ分けをして地域との交流を図っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (1階)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を作り、掲示している。会議の場でも話し合う事により共有している。入居者も地域の一員としての意識を持てるように、管理者と職員は近隣との交流を重視し、実践につなげている。	理念が玄関内の目立つところに掲示されています。地域密着型サービスの意義を踏まえつつ理念の実現に向けて、日々の介護が実践されているかどうかを職員会議やフロア会議の月例会で検証しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事に参加や、当番制のゴミステーションの掃除に加わる等、また、近隣小学校との体験教室や交流を通じ、地域の一員として日常的に交流の機会を持っている。	自治会主催元旦マラソン等の行事に参加する他、体験学習のため地元小学校児童の受入れやボランティアによるパンフレット教室等の開催を通して地域との交流を進めています。納涼会等ホーム行事案内の近隣配布もしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在のところ、地域の人々に向けて活かしているとは言えないが、運営推進会議や小学校との交流を通じて、地域貢献が出来るような体制を築き、努力していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、家族・入居者・自治会長・民生委員・小学校・あんしんケアセンターの方々に参加して頂き、現状報告やお互いに助け合える事、迷惑掛けている事等について話し合いができ、サービス向上に活かしている。	会議は年2回開催され、外部からのメンバーは、自治会長、包括支援センター、民生委員、小学校教頭等です。議題は利用者状況、活動報告、外部評価の一部報告等で、そこでの意見等を運営に活かしています。	地域の理解と協力を得られるよう、開催回数を増やすと共に、今回の評価結果と目標達成計画を取り上げる等議題を広げ、得られた意見をサービスの向上につなげることが望まれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何かと相談にのって頂いたり、事故報告の報告をしたりと積極的に連絡を取っている。	事故報告等のため市担当課、オムツの申請代行等のため区担当課など、必要に応じて担当窓口と接触し相談に乗ってもらっています。又、グループホーム連絡会の勉強会へ担当を招いて意見交換しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関にアラームを設置し、施錠しないケアに取り組んでいる。外出傾向の強い方が玄関に行った際には「いつてらっしゃい！」と声を掛け、スタッフ間で注意を促がし、一緒に出掛けている。戻って来られた際には「お帰りなさい！」と迎えている。身体拘束に関しては、生命に関わる場合のみ家族に同意を得て行っている。	身体拘束排除のホーム内研修を行い、生命に係わる場合を除いて身体拘束をしないよう介護に取り組んでいます。生命に係わる緊急性がある時は、家族の事前同意を得ています。なお、玄関等は施錠していません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に応募してもなかなか受けられない状況だが、高齢者虐待防止関連法についての資料を回覧している。また、会議の場を利用し虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価（1階）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族から希望のあった方については支援させて頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時以外でも、随時行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際等を利用し、近状報告をするだけでなく、家族の意見や要望、そして入居者が抱えている気持ちや要望・不満等を気軽に言い易いような雰囲気配慮している。また、情報や苦情は連絡ノートを活用し、共有・改善を図っている。個別ケアを通じ、入居者本人からも直接意見・不満を引き出せるよう機会を設けている。また、契約の際外部者として、国保連の相談窓口の案内をし、玄関にポスターも掲示している。	家族の面会時や状態の急変時等に家族の要望等を聞いています。利用者の不満や要望等については引継ぎの連絡ノートに記入し対応しています。又、運営推進会議でも家族等の意見が率直に出せるよう努めていますが、十分ではないように思われます。	今回の外部評価の一環として行った家族アンケートで寄せられた意向や要望等について、まずホーム内で検討し、改善策を講じることが望まれます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見解や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は職員と一緒に食事をしたり、同じ目標や思いで仕事をしたり、会議の場を設け、少しでも気さくに運営に関する意見や提案を話し合える環境を作り、運営に反映させている。	定例の職員会議やフロア会議で職員とオープンに話し合っ提案等を取り入れ運営に反映させています。又、管理者2人が年2回行う個人職務目標面接時に個別に意見等を聞いて運営の改善に活かしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	3ヶ月に1回の査定を行う際、管理者2人と本人とで話し合いの場を設けると共に、職員個々の努力や実績・勤務状況が給与に反映できるよう努めている。また、皆勤手当や会議手当もあり、やりがいを持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの力量やケアの現状を把握し、6ヶ月毎にOJTシートの自己評価を記入して貰うことにより、問題点が明確になる。それを次回の目標としながら仕事に取り組む事により個々のステップアップを図っている。しかし、法人外の研修を受ける機会の確保はできていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入しており、同業者との交流や学ぶ機会がある。また、近隣のグループホームとの合同企画を通じ、職員の質の向上に向けた取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価（1階）		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や相談・事前面接の際に本人からも聞き取りを行う事によって、不安に感じていることや困っていること等を直接聞く機会を設け、少しでも不安が軽減出来るよう関係作りに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や相談・事前面接の際に本人のいない状況での聞き取りを行う事によって、不安に感じていることや困っていること等を直接聞く機会を設け、少しでも不安が軽減出来るよう関係作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	導入の際に、本人と家族からの話しあいを通じ、不安や要望を聞かせて頂く事から、何が改善されれば気持ちよく暮らせるのかを見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で趣味や特技を発揮出来る場面作りをすることで、入居者自身から教えて頂いたり、相談したり、支えあえるような関係作りをしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族と共に入居者を支えるチームの一員として協力し合い、入居者を支えていけるよう関係作りに努めている。また、家族が参加できる企画を多くすることで、入居者と楽しい時間を共有出来る場面作りをしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで大切にしてきた馴染みの人や家族との絆を重視し、交流や手紙・電話・外出・外泊等も自由に出来る様支援に努めている。また、馴染みの場所へ出かけたりする企画も立てている。		家族や馴染みの人との絆を大切にしており、利用者によって来訪者の回数にも差がある為、なるべく外へ行く機会を作るよう、近く的美容院や薬局等に付き添ったり、週1回の買い物に全員行けるように配慮しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活や企画(手作り食事や各教室等)を通じ、入居者同士が関わり合い、お互いで出来る事を声掛けし助け合っあう場面が見られている。出来る人が出来ない人を支えあいお世話している良い関係が出来ている。			

自己	外部	項目	自己評価（1階）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了し、他施設に移られた場合でも面会に伺ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望等を日頃の生活を共にしていく中で、の会話や個別ケアでのふれあいを通じ汲み取る努力をしている。困難な場合は家族からの情報や家族と職員で話し合い、本人の希望に添えるよう努力している。	日常の触れ合いの中で、本人からの聞き取り、それが困難な場合は観察等から判断したり家族と話し合ったりして、本人の意向を汲み取るようにしており、その結果を踏まえ1泊旅行やディズニーランド等へ出かけたりしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境等の情報を連絡ノートを活用し、情報共有を図っている。また、家族や前ケアマネとも連絡を取り合い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方にあった一日の過ごし方や心身状況・有する能力の見極め等、職員との関わりの中で把握に努め対応している。勤務者は毎日の業務前に記録を読む事により、把握して仕事ができるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する際、本人からの意見や職員・家族・必要な関係者との話し合いを通じ、意見・アイデア・アドバイスを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画は、入居の際の聞き取り時に本人・家族から生活歴・家族歴・希望等を聞いて、暫定プランを作成し、入居後は職員からの情報収集等を参考に、3ヶ月毎にあるいは必要に応じて見直しをしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者一人ひとりの日々の様子を詳細に記録に残し、また、気づきや工夫を連絡ノートを活用する事で、小さな情報でも共有化し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況や関わりの中で発見したニーズ等を共有化し、本人の意向や思いを実現できるよう柔軟に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価（1階）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者が顔馴染みの関係作りや地域資源を把握し、安全で豊かな暮らしができるように、積極的に自治会活動への参加や地域の中に出かける機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が選んだかかりつけ医のもとで、適切な医療を受けられるように支援している。また、必要な際には家族とかかりつけ医が話し合いの場を設けられるよう調整する場合もある。	受診に関しては、提携診療所の主治医と利用者の入居前のかかりつけ医の2本立てで行われていて、かかりつけ医の場合は家族が付き添います。又、訪問歯科医は週1回口腔ケアのため往診しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの看護師が週一回訪問した際、近状報告や相談・気づきを報告し情報を共有している。その事により、個々の入居者が適切な受診や看護を受け、安心して暮らせるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供や入院中の状況把握に努め、早期退院に向け病院関係者や家族との情報交換や相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については契約の段階でも話しをするが、入居者の状況に応じて家族との話し合いの場を設け、事業所で出来る事・出来ない事を十分説明しながら方針を共有している。また、必要に応じて主治医・訪問看護師・家族・職員等の関係者と連携をとり、入居者が少しでも安心して暮らせるよう、チームとして支援に取り組んでいる。	入居に当たって、重度化した場合の指針について本人と家族に説明し、同意書を交わしています。更に、看取りに関しても、延命のための医療行為を伴わない旨の意思確認書を家族と交わし、家族、協力医、訪問看護師と密に連携して終末期の介護支援をしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	出来ていない。今後は救命講習等に積極的に参加し、実践力を身につけていく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行う事により、昼夜問わず入居者が避難出来る方法を訓練している。また、運営推進会議を通じて、今後地域との協力体制を築いていく。	消防署立会いの防火訓練と自主避難訓練（夜間想定を含む）を年に1回ずつ実施しています。防火管理者も選任されており、避難マニュアルも用意されています。	防火訓練に先立って、運営推進会議で消防署に防火講習をしてもらい意見交換を行うなどして防火意識を高め、地域の方との協力体制を築いていくことが望まれます。

自己	外部	項目	自己評価（1階）		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格や誇り・プライバシーを損ねるような言葉がけ(排泄や入浴に関する事や失敗を宣伝・指摘するような発言)や対応について会議の場で話し合ったり、またはその都度個別に話している。職員間でもお互いで配慮し合っている。	その人らしく、家庭的で穏やかな日々をモットーに一人ひとりを大切にしており、トイレへの誘導の声かけにしても、個々に注意を払うなど配慮が見られます。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	少しでも自分で選択したり、決定したりできるような機会を多く設けている。また、外食会や外出企画の際には企画立案の段階から入居者に参加して頂いたり、日頃の会話の中から思いや希望を汲み取り、少しでも実現出来るよう支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースで生活して頂けるよう柔軟に支援している。起床時間・就寝時間・入浴や食事の時間・日中の過ごし方等も本人の希望を重視して対応している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問整容や訪問美容サービスを取り入れ、希望者に利用して頂いている。また、起床時には一緒に好みの服を選んで頂けるよう支援したり、日常生活の中でも身だしなみには配慮している。女性の方には、外出や企画の際にはお化粧の手伝いをさせて頂くことで、華やかな気分を感じて貰えるよう支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作り昼食会を毎週2回行っており、前日に買い物に行き、自分達で食材を選び献立を考えている。また日常生活の中でも、簡単な食事作りや盛りつけ・後片付け等を共に行うことにより、役割を見出し、協力しながら一人ひとりの力が発揮できるよう支援している。自分達でパンやうどんを手作りする楽しみもある。	食材と献立は専門業者から取り寄せていますが、週2回は職員が昼食を手作りします。その場合、食材等の買物は前日に行いますが、利用者も一緒に行き好きなものを選びます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂食量や水分量が1日を通じて確保出来る様、記録を共有して対応している。また、その方の状況や能力・習慣に応じた対応も連絡ノートを活用しながら支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きやうがい等については、その方に応じて促がしや介助を行なっている。			

自己	外部	項目	自己評価（1階）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを排泄表によりおおまかに把握しているので、随時個々に合わせさり気ない誘いや介助をしている。	日頃からトイレへの誘導に気をつけており、言葉かけにも注意を払って対応しています。夜間は人によってはオムツ対応し、トイレ内にお尻拭き布を備えるなど心遣いが感じられます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	身体を動かす機会を習慣化したり、野菜を多く取り入れた献立や食べ易い形態にする等の工夫を行い、便秘の予防や改善に努めている。また、必要時にはDrに相談し、服薬調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の希望や必要に応じていつでも入浴出来るよう支援している。また、入浴剤を選んでいただいたり、入浴中に音楽を流したり、興味のある会話をしたりする事で入浴の時間を楽しくて頂けるよう支援している。	週2回の入浴を基本としていますが、朝9時から夜21時迄入浴希望があれば対応しています。介護側も同性介助に心掛けています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日には散歩にお誘いしたり、皆で掃除をしたりする機会を通じて自然と日中の活動量を増やし夜間ぐっすり眠って頂けるよう工夫している。また、なかなか寝付けない・眠れない方については睡眠状況を観察・記録し、Drや家族に相談する等の個別ケアを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容や副作用・用法・薬の目的等、また服薬時の介助方法や注意点等について、連絡ノートで情報共有し、対応している。症状の変化等に関しては記録し、家族・Drに報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩だけでなく、入居者の楽しみや気晴らしとしてボランティアに協力して頂き、カラオケや舞踊・手品・各教室等の催しを開催している。また、出張寿司を利用したり、魚の解体ショーでは、入居者に捌いて頂いたりする機会が出来た。恒例となったパンorケーキ教室がホーム内企画の喫茶店に発展。楽しんで頂いている御様子。サロン企画も充実して来ている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿えるよう努力している。近隣の散歩だけでなく、海辺へのドライブや日用品の買い物等にもお誘いし、戸外に出掛けられる機会を多く支援している。また、季節行事以外にも外食会や買い物・デイズニード等への企画や日帰り旅行等、個々の希望を企画に反映させて支援している。	ホームとして一人ひとりの外出には気をつけており、散歩を兼ねての買い物をしたり、毎日外出する利用者もいます。天気の良い日には海を見にドライブに行ったりするなど遠出の外出支援もします。又、以前実施したことがある日帰り旅行や1泊旅行も検討しています。	

自己	外部	項目	自己評価（1階）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理可能な方・希望される方については同意書を得たうえで、金銭所持して買い物されている。仕舞いこみ・盗られ妄想等が出てきた際には家族と相談しながら対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中お見舞いの葉書や年賀状等、サロンで企画し、家族や友人等に書いて頂いている。それ以外でも手紙や電話も自由にやり取りが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が居心地よく過せるよう配慮している。季節感や生活感を意識した飾りつけを入居者と相談しながら一緒に行っている。また、廊下やリビングの壁には、入居者の作品や行事の写真・小学生からのお手紙や似顔絵等を掲示し、思い出話をしたり、面会の方にも見て頂けるようにしている。	玄関周りは草花の鉢が並べられており、1日の大半を過ごす居間はひな壇などが飾られ、壁には行事写真、児童が描いた利用者の似顔絵など掛けられています。トイレの照明は少し暗い印象がありますが、風呂場など他の共用部分は明るく、全体として生活感や季節感が味わえるよう配慮されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった入居者同士で食事準備をしたり、談話したり、お食事したり出来るようテーブルを4つに分けたり1つに纏めたりして対応している。また、リビングのソファ以外に廊下にもベンチを設置。好きな場所でゆっくりと寛いで頂けるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の馴染みの家具や使い慣れた物を持ち込んで頂いている。少しでも住み慣れた生活環境に近付け、安心して居心地良く暮らして頂けるよう配慮している。	居室内に洗面台やクロークが備え付けてあり、使い慣れたベッド等の家具、TV等の家電品、馴染みの飾り棚等が持ち込まれています。壁には海外旅行の写真、好きな画家の絵や折り紙作品を飾る等して、快適に暮らせるよう工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能に応じて、少しでも自分で出来ることを安全に出来るよう配慮しながら支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270200551		
法人名	(株) ユタカ		
事業所名	花梨の郷 (2階)		
所在地	千葉県花見川区千種町111-1		
自己評価作成日	H 22年1月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会
所在地	東京都港区台場1-5-6-1307
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自家菜園で利用者と一緒に作った野菜を託児所の子供たち・利用者の家族と一緒に収穫したり、料理して食べている。畑で収穫したジャガイモ・さつまいも・キュウイを近隣の方や交流のあるグループホームに差し入れている。孤立しない様に他施設との交流や社会参加に力を入れている。本年度より火曜サロンを取り入れて1階・2階の合同でボランティアによるパンフラワー教室・折り紙教室を開催している。開催後のお茶のみではおしゃべりが弾み賑やかな時間となっている。運営推進会議の開催により近隣の小学校との交流があり、託児所も開設したおかげで利用者のお孫さんくらいの子供との交流が多く持てる様になりました。利用者が今までに関わってきた生活行事の取り入れを企画を通して大事にしている。味噌作り・餅作り・うどん作り等では昔からの経験・知恵を大いに発揮して下さっている。パン居室・ケーキ教室では家族・近隣住民もお誘いして好評である。利用者からの要望等もくみ取り昔住んでいた場所に出かけたり、旅行に出かけたり個別ケアにも力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (2階)		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を作り、掲示している。利用者も地域の一員としての意識を持てるように、管理者と介護者は近隣との交流を重視し実践に繋げている。会議の場でも話し合う事により共有している。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会のお祭りや元旦マラソンの応援に出かけたりしている。事業所では企画を通じ町内にポスターを掲示して誰でも参加できる様にしている。参加出来ない場合は利用者さんと一緒に届けて自宅訪問している。買い物も近隣に行っている。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしていると言えないが、運営推進会議の場や小学校との交流を通じて、地域貢献が出来る体制を築き努力して行きたい。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者・家族・地域の方々・小学校校長先生、安心ケアセンターの方々に参加して頂きお互い助け合える事・迷惑掛けている事など話し合いが出来、サービス向上に活かせる事ができた。後日、小学生との交流会も行えた。			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何かと相談に乗って頂いたり、事故報告をしたりと積極的に行っている。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関に施錠しないケアに取り組んでいる。不穩で玄関に行った場合「行ってらっしゃい」と声を掛けるなど拘束しないで安らげる声かけで対応している。生命に関わる場合のみ家族に同意を得て行っている。			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に関しては申しこむが中々受けられない。高齢者虐待防止関連法についての資料を閲覧したり会議の場を利用し虐待が行われないように見過ごされないように注意を払い、防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価 (2階)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族から希望のあった方については支持させて頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時以外でも随時行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には必ず近況報告を職員より話しかけるようにしている。話しやすい雰囲気作りにより意見・要望を気軽に言って下さる。契約時には外部者として国保連の相談窓口の案内をし玄関にポスターも掲示している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者と一緒に食事をしたり、同じ目標や思いと一緒に仕事をしたり、会議の場を設け少しでも気さくに運営に関する職員の意見や提案を話し合える環境を作り、運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	3か月に1回の査定を行う際、管理者2人と本人で話し合いの場を設けていると共に勤務態度や努力・実績により給与に反映している。会議手当や皆勤手当もあり向上心・やりがいを持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の力量やケアの現状を把握し6か月ごとにOJTシートの自己評価を記入してもらう事により問題点が明確化される。それを次回の目標としながら仕事に取り組む事によりステップアップを図っている。しかし法人外の研修を受ける機会の確保をしていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入しており同業者と交流(合同企画)を通じ職員の質の向上に向けて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価（2階）		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学・相談の際に本人からも聞き取りを行う事により不安に感じている事・困っている事等を直接聞く機会を設け少しでも不安が軽減できる関係づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学・相談の際に本人がいない時に聞き取りを行う事により不安に感じている事・困っている事等を直接聞く機会を設け少しでも不安が軽減できる関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	導入の際に、現在必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で利用者の趣味を活かせる場面作りをする事に利用者が発揮し、利用者から学ぶ機会があることにより共に暮らす関係作りを築いている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は利用者を支える為に家族参加の行事と一緒に楽しい時間を過ごしたり、利用者を支えて行く為に話し合い、出来る事を取り入れている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との関係作りが途切れない様に面会時間は朝8時から自由である。季節のお墓参りなども家族と外出し懐かしい親戚と出会う機会がある。外泊・外出も自由である。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や気の合う利用者同士の方達を同じテーブルにしておき、食事作り等ではお互い出来る事を声を掛け合っている場面が見られている。出来る人が出来ない人を支え合いお世話する事により良い関係作りが出来ている。			

自己	外部	項目	自己評価（2階）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了し他の施設に移られた利用者の面会に行っている。又、亡くなった利用者のお墓参りも利用者の方達と行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや暮らし方の希望を日頃の生活を共にする事により会話の中からくみ取る努力をしている。又困難な場合は家族からの情報や家族と職員で話し合い本人の希望に添える努力をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各利用者の生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境等の情報を申し送りノートを活用し共有化し把握に努めている。これまでのサービス利用の経過などは家族・以前のケアマネジャー・ケースワーカー・相談員と連携し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の1日の過ごし方をその人の状態に合わせて過ごせる様に毎日のサービスの中からその人の出来る事・出来ない事を日誌の記録に残し介護者は勤務前に記録を読む事により把握して仕事が出来るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成するに当たり職員全員からの意見収集ノートを活用し活かしている。職員全員・家族からのアイデア・意見を必要な関係者との話し合いを通じ現状に即した介護計画に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一緒に生活し関わる事により利用者の日々の様子を記録に残し、又気づきや工夫に連絡ノートを活用している。介護者は勤務前には必ず目を通す事により小さな情報でも共有する事が出来、介護計画に反映できている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者とは24時間関わる事によりその時々生まれる、その方達のご希望やニーズに対応している。ディズニーランドなどにも外出している。		

自己	外部	項目	自己評価（2階）		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が顔馴染みの関係・地域資源を把握し安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来る様に積極的に自治会活動への参加や地域の中に出かける機会を設けている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が選んだかかりつけ医の元で、適切な医療が受けられる様に支援している。また必要な場合には家族とかかりつけ医が話し合いの場を設けられる様に調整している場合もある。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりで得た情報は毎日送りノートに記入し1週間1回の定期訪問時には看護師が目を通している。又心身状態に変化があれば訪問看護師より主治医に連絡して適切な受診が受けられるように支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には情報を提供し、入院中にはお見舞いに行き都度情報を頂いている。早期に退院出来る様に家族・病院関係者と情報交換や相談を行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期のあり方について、契約の際に話をするが利用者の状況に応じて家族との話し合いの場を設け、事業所で出来る事、出来ない事を十分に説明し方針を共有している。、訪問診療の導入や主治医と関係者と連携しチームとして支援に努めている。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	出来ていない。今後は救命救急講習に参加する事により実践力を身につける様にする。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の立会いで火災訓練を行い昼夜を問わず利用者が避難が出来る方法を全職員が身につけている。今後は地域との協力体制を築いていく。			

自己	外部	項目	自己評価（2階）		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りやプライバシーを損ねる様な言葉掛けや対応については、話し合いの場(会議)を設けている。又その都度スタッフに個別に話しをしている。職員間でもお互い配慮している。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	少しでも選択したり、決定出来る様な機会(外食会・買い物)を設けている。日常生活の中で関わる事で個別に話し合う場を設け、利用者が思いや希望を話しが出来る様に支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の状態に合わせたペースを大切にしている。就寝時間・起床時間・日中の過ごし方も利用者の希望に沿って支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者・家族の意向があれば職員と一緒に美容室に出かけている。出かけられない人は訪問理容を利用している。起床時には一緒に好みの服を選べる様に支援して外出の際にはお化粧品・身だしなみには配慮している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作り昼食を週2回行っている。前日には買い物に行き自分で食材を選び、食事作りには座っても出来る事など些細な事でも皆で協力し一人一人が発揮出来る様に支援している。自分達で。パン・うどん作りをして手作りする楽しみがある。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取・水分摂取量の把握には記録を通して支援している。一人一人の状態に応じて、高カロリー食を取り入れている。食事提供内容を利用者の状態に合わせて支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きや嗽については一人一人の状態に合わせた声掛けや促しをしている。直ぐに忘れてしまう利用者には紙に記載して壁に掲示している。			

自己	外部	項目	自己評価（2階）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日常生活動作を利用してなるべく面倒にならない動線を活用し声掛けしている。排泄表を利用し排泄パターンを把握して各状態に合わせた声かけを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物は野菜を多く取り入れた献立を工夫している。身体を動かす機会を習慣化し、便秘への予防に取り組んでいる。又医師への相談・連携を行い予防している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望や必要に応じて入浴はいつでも入る事が出来る。寝る前に入りたいと希望されて入る利用者もいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日には散歩にお誘いしたり、皆で掃除をしたりする機会を通じて日中の活動量を増やして自然と眠れる様に支援している。利用者の生活習慣や状態に応じて対応を替えている。眠れない利用者は睡眠状況を記録に残す事により個別対応を統一出来る。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の使用している薬の目的や副作用、用法や用量や注意点について連絡ノートで情報を共有している。症状の変化については記録に残し主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の楽しみや気晴らしにボランティアの方に協力して頂きカラオケ大会・マジック・大好きなお寿司の出張寿司などを取り入れたり、魚の解体ショーでは利用者自らさばくなど力を発揮出来る機会ができた。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節によりお花見や紅葉・ピクニックに出かけ季節を感じて頂いている。利用者の希望をくみ取り個別にディズニーランドにて出かけ支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (2階)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は本人がお金を持つ事の大切さを理解し、以前は支援していたが現在の処お金を所持したりする事により物盗られ妄想に繋がる為家族に希望で支援していない人もいる。出来る人は近隣のコンビニなどに出かけて購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者と家族の手紙・電話のやり取りは介護計画の一環としても取り入れ、重要な支援の一つになっている。1年を通じ、暑中見舞い・年賀ハガキ、お孫さんへの手紙などを書いて、返事を頂くなどやり取りを行い大変喜んでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は利用者に落ち着いて過ごせる様に利用者に合わせた空間にしている。各空間は季節感を意識した飾りつけや利用者の馴染みのある物を貼って和めるように勤めている。又写真・利用者の作品なども展示して面会時には家族と一緒に見れる様に工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中で独りになりたい・あまり交流が苦手な利用者には外が見れる様に廊下に椅子を置いたり・テラスに椅子を置いたりしている。思い、思いで好きな所に自由に行けるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には本人・家族が相談しながら、使い慣れた物・好みの物を設置して頂いて、少しでも住み慣れた環境に近い状態にして居心地よく、安心して暮らせる様に工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には利用者の写真入りの表札を掲げ自分の部屋が分かる様にしている。夜間はトイレのみ灯りをつけてトイレの場所が分かる様にしている。洗濯物が自分で干せるように高さを低くしている。		